

環境レポート

ENVIRONMENTAL REPORT

Vol. 23

フジシールグループ
筑波工場にて
太陽光発電パネルの稼働開始

フジシールグループでは、重要課題の一つである気候変動問題に対して、GHG排出量の削減を目標にしています。再生可能エネルギーの活用を推進するため、茨城県の筑波工場にて、自己所有自己消費型の太陽光発電パネルの稼働を2024年1月より開始しました。自己所有自己消費型は太陽光発電設備を自社で購入・設置して運用するモデルになり、メンテナンスには費用がかかる一方で、発電した電気は自社のものとして自由に使用することが可能です。

総面積1,289㎡の太陽光発電設備を設置することにより、326MWhの再生可能エネルギーを発電し、年間約150t-CO₂削減を見込んでいます。

今回の筑波工場における太陽光発電パネルの投資においては、「社内炭素価格（インターナルカーボンプライシング）制度」（以下ICP）を投資判断要素として取り入れています。ICPとは、企業が脱炭素を推進するために、自社の炭素排出量に価格を設定し、組織の戦略や意思決定に活用する手法です。フジシールグループにおいても、CO₂の排出量に影響する設備投資において、社内炭素価格を設定することでCO₂削減による効果を価値化し、投資効果として考えることで投資判断の一つの指標としています。



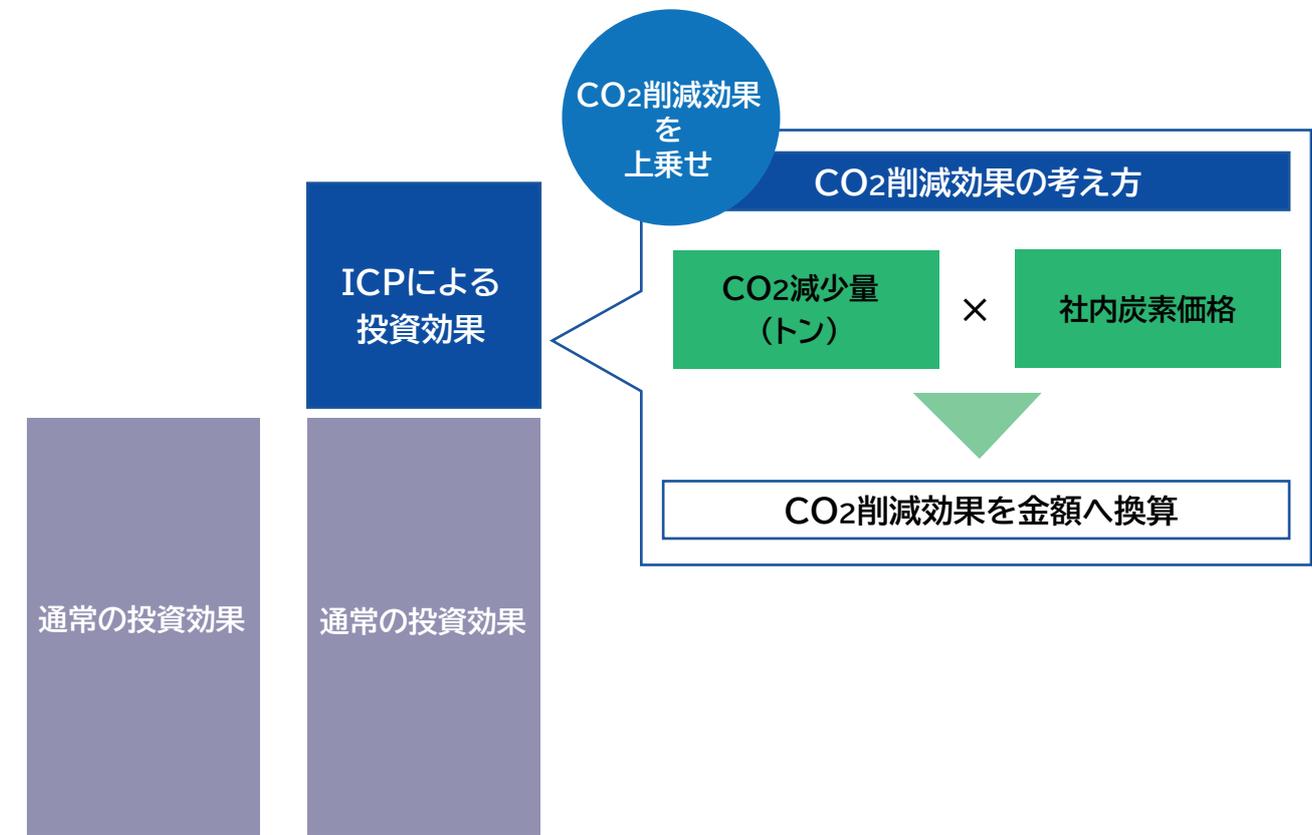
環境レポート

ENVIRONMENTAL REPORT

Vol. 23

フジシールグループ
筑波工場にて
太陽光発電パネルの
稼働開始

【インターナルカーボンプライシングの考え方】



通常（通常の）投資効果 ICP導入後の総投資効果

フジシールグループは、引き続きグループ全体で再生可能エネルギーの活用を進め、2050年のカーボンニュートラルの達成に向けた取り組みを実施します。持続可能な社会の実現に貢献することにより、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。